

平成20年度

《第1回特別奨学生試験》

国語

時間40分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

問題 次の文を文節に区切りなさい。「そのかわいい女の子は小さなイヌと散歩していた」

国文法では、文節は「不自然でない程度に文を区切った一区切り」だとされています。学校では、間に「ね」を入れることができる区切りが文節だと覚えればいいんだ、と国語の先生は教えてくれるようです。確かに「そのネ、かわいいネ、女の子はネ、小さなネ、イヌとネ、散歩してネ、いた」のように区切ることはできるかもしれませんが、ここでまず問題なのは、「不自然でない程度に文を区切る」というひどくアイマイな定義です。「不自然でない程度」などと言われても、人によって不自然だと感じる度合いは違ってくるのが普通なのではないでしょうか。模型の飛行機を不自然でない程度に分解してみろ、と言われて、皆が同じように分解することはおそろくないのと同じことです。日本語の話者であれば誰でも、区切り方に違いはありえないのだという（多分ありえない）事実が証拠立てられない限りは、「不自然でない程度」などという、どうにも感覚的な定義は決して受け入れられるものではないと思います。私だったら、「その」と「かわいい」の間に「ね」を入れて区切るのは少し不自然な気がしますし、「散歩して」と「いた」を区切るのには、ほとんどまったく不自然だとさえ言いたくなってしまう。このことからもおわかりになるように、国文法で教えられる文節という単位は、結局のところ、誰がやっても必ず同じものができあがるような形で定義されているわけではありません。要するに、こういうものは定義と言えるものではないということです。まともな定義もされていないのに、最初にあげたような問題を、国文法を勉強し始めた途端に解かされる日本の中学生は、まことにお気の毒だと言わざるをえません。文節という単位を、文のしくみを明らかにするための基本として設定しようと思うならば、当然のことながら、誰がやってもまったく同じ文節に区切るようになるような、客観的な文節の定義を与えられなければなりません。もちろん、細かい点での考え方の違いが出てくるのは、どんな単位を設定する場合にも起こりうることです。ですが、一番最初の段階で定義をしようとするときには、誰がやっても同じようになるように配慮しておくことは絶対に必要です。そうでなければ、たとえば日本語の文がどのようなしくみで成り立っているのかを論じるような場合に、自分の考えに都合の良い文節を適当に設定することができることになってしまいます。「日本語の助詞は一つの文節を作る」のだから、考えを持っていて、それが正しいと信じている人なら、「女の子は」を「女の子」と「は」に区切るのは自然だし、「イヌと」を「イヌ」と「と」に区切るのも自然だ、と主張すればよいわけです。こういう説明に説得力がないのは、誰にとっても明らかでしょう。

（町田 健『まちがいだらけの日本語文法』より）

語注

- ・アイマイ：「曖昧」と書く。物事がはっきりしない様子。物事が確かでないさま。あやふや。不明瞭。
- ・定義：概念（言葉であらわされるおおまかな意味）の内容や用語の意味を正確に限定すること。また、その式や命題。

《設問》

問一 この文章は、「文を文節に区切って何がうれしいのか」という章の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「文節の問題点」とはどのようなものかを八〇字程度で述べなさい。（ただし、指定された語句はという順序で用いてもかまわないものとする）

・定義 ・不自然でない程度 ・客観的な ・誰がやっても同じ ・感覚的

問二 筆者は、文中の問題の解答「そのネ、かわいいネ、女の子はネ、小さなネ、イヌとネ、散歩してネ、いた」という区切り方を認めていませんが、この区切り方にはひとつの「きまり」がみられます。その「きまり」を文法的に簡潔に説明しなさい。

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

「こまでのお話

空には大きな月とたくさん星が、きらきらと光っていました。小さな川のほとりで、ホタルの子どもたちが、いっせいに生まれました。そして、やわらかな羽を広げて飛び立ち「とべた、とべたよ」口々に叫びました。そのとき、飛び立てずに小さな光がひとつぽつんと光っているのに気がつきました…。

ほたるたちは、たんぼへおりてみました。

「どうしたの？」

「どうしてか、とべないんだよう」

そのほたるは、かなしいこえでいいました。

そのほたるのはねは、みにくくちぢれていたので。

「はねにちからをいれてひろげて」らん

「ひろがらないだよ！」

「あしをふんばってみたら？」

「くびをひっこめてみたら？」

ほたるたちはいっしょうけんめいおうえんしました。

でも、はねはひらきません。

とべないほたるは、くやくして

あたりをメチャメチャにあるきました。

1はずかしくなつて、からだをいしにぶつけました。

みていたほたるの1ぴきが、そつとたちさりました。

つづいて2ひき、3ひき……。

とべないほたるは

またひとりぼっちになってしまいました。

おまつりのたいこのおとが、かぜにのつてきこえます。

ほたるがりにやってきたこどもたちのこえがちかづいてきました。

「きようはほたるがないね」

「どうしてかしら？」

ほたるたちはみな、ツユクサのはのうらにかくれ、

じつとしていたのです。

とべないほたるは、たかいアシのはのてつぺんにのぼりま

した。

そして、おしりのあかりをいっばいにともしました。

とおくにとうだいがみえます。

かわやたんぼがあんまりきれいなので、

とべないほたるはうっとりとして、それをみていました。

とつぜん、おおきなこえがしました。

「あらまさちゃんのにほたる」

とべないほたるは、おどろいてふりむきました。

ほたるがりにきたこどものてに、

1ぴきのほたるがとまっていて、2じつとうごかないので

す。

「ねえちゃん、このほたるにげないんだよ！」

ぼくがね、アシのはにとまってるほたるをとろうとしたの。

そしたらこのほたるがすうーっととんできて、

ぼくのてにとまったんだよ」

《設問》

問一 この文章から読み取れる「とらえられたほたる」の性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 線部1「はずかしくなつて、からだをいしにぶつけました」とありますが、このときのとべないほたるの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。

問三 線部2「じつとうごかないのです」とありますが、このほたるはなぜ「じつとうごかない」のですか。その理由を三十字程度で具体的に説明しなさい。

問四 線部3「もうそんなことはきにしていません」とありますが、なぜとべないほたるは「きに」しなくなつたのですか。その理由を三十字程度で具体的に書きなさい。

問五 ねえちゃん・まさちゃん・ひろちゃんを三人兄弟だとするとひろちゃんは何番目ですか。また、その根拠となる部分を文中から三十字程度で書き抜いて答えなさい。

「ふしぎなほたるね。でも、もつてかえりましょうよ」ふたりは、びんにほたるをいれると、だいじそうにもつてかえりました。

こどもたちがかえつたあとになつてとべないほたるは、はつときがきました。

「あのほたるは、ぼくのかわりにつかまってくれたんだ！」

とべないほたるは、からだじゅうがあつくなりました。

それから、なかまのほたるのこえがします。

「ぼくがでていこうとおもったんだ」

「わたしもよ。わたしもでていこうとおもっていたのよ」

とべないほたるは、むねがいっばいになつて、おおつぶのなみだをこぼしました。

まさちゃんとねえちゃんは、いえへかえると

びんからほたるをそつとだしてやりました。

そして、ほたるをひろちゃんのへやにとばせてやりまし

た。

ひろちゃんはからだが変わるく、いつもねているのです。

「おねえちゃん！ひろちゃんのへやに」

ほたるがとんできたのよ！」

ひろちゃんは、せいといっばいのこえでいいました。

そして、うれしそうにほたるをめでおいました。

「あのほたるにも、やさしいねえちゃんや

にいちゃんがいるのかなあ」

「いるよ！いるとも！きみたちみたいにとつてもなかがいいんだよ」

ほたるはこころのなかでそういつて、ちからいっばいと

びつづけました。

しばらくして、かわべりのほたるたちのところへ、あの

とらえられたほたるがかえつてくるといいうしらせがと

どきました。

でむかえのじゅんびです。

とべないほたるもみんなといしよに、せつせとはたらい

ています。

ちぢれたはねはもとのままでしたが、3もうそんなこと

はきにしています。

「あつ！かえつてきた！」

「はくちようぎだ！」

むかえにいったほたるたちは、おおきなはくちようぎの

かたちにならんでかえつてきたのです。

「まんなかにいるのが、ぼくをたすけてくれたほたる！」

とべないほたるは、なみだをいっばいにかべて、

はくちようぎをみあげていました。

とべないほたるは、こころのそこからいいました。

「ひとりぼっちじゃないって、

なんてすてきなことだろう！」

(小沢昭巳『とべないほたる1』より)

※ すべての問いの制限字数には句読点・符号を含むものとする。